

こんにちは 仙北市議会です



No.35

2014年8月1日 発行
発行 仙北市議会
編集 仙北市議会
広報編集・特別委員会

先達・供養佛地区に竣工完成した
念願の土石流・砂防ダム
(詳しい説明は15ページをご覧ください)

目次	改選後の新議会構成2~3P
	第3回仙北市議会定例会4~5P
	一般質問6~11P
	各常任委員会12~14P
	会派紹介・広報特別委員会15P
	傍聴席・編集後記16P



6月29日砂防堤完成式典で黙祷する関係者

新議長・副議長・各委員会構成決まる

改選後の新議会構成

議員の責務



仙北市議会議員
青柳 宗五郎

て当選するが、当選した瞬間から仙北市民全体の代表者となる。したがって、一部の地域や特定の組織のみの代弁者であってはならない。仙北市のあるべき姿を常にイメージしながら、事業や予算への批判・監視のみならず、市民にとって必要な提言を行うための行動が求められる。

議員は、住所地の周辺住民や特定の組織の支援を受ける

市全体を見据えた政策論争のためには、不断の研鑽が不

副議長就任にあたって



仙北市議会副議長
荒木田 俊一

持する「議事を整理する」「議会の事務を統理する」「議会を代表する」四つの職務が地方自治法において規定されています。

副議長とは「議長に事故ある時」「議長が欠けた時」に議長に代わってその権限を行う者であり、法律的には他の機関のように議長の補佐機関ではありません。しかし、実際は議会の運営について議長から相談を受け意見を述べたり、また議員から議長側への

議会がその任務を達成するには、その適正な運営が必要ないことではありません。議長には「議場の秩序を保

可欠である。議員は、決して職員のように全ての行政事務に精通した執行機関のプロではないし、そのようになる必要もない。あくまでも、住民の意向を政策に反映させる代弁者として、住民との対話から必要な提言を行い実行させることこそが、大切な責務の一つではないだろうか。

この責務を全うするため、次の3点を目標としたい。

- 1、一部地域から市全体への視点の拡大
 - 2、追及型の質問から提言型の質問への転換
 - 3、自らの足で得る地域の課題や情報の収集
- 以上の事項を議員自ら実践することが、地域課題の改善へとつながるものと確信し、微力ながら、より信頼される議会へと進化するために、この身を奉じる決意である。

パイプ役となったりと、いわば潤滑的な役割も有するものと感じています。

就任しましてから2カ月を過ぎましたが、対外的な活動の多さに驚き、市民の議会に対する期待の大きさを改めて感じています。

2元代表制の中で議員個々の役割を発揮していく必要はもちろんのことですが、議会としての権限を十分に発揮できる環境作りにも留意し活動していきたいと思っております。人の話を聞くことが下手な

私で、相手の想いを受け止めることが十分でない場面を無くする事が大事と思っています。

そのためには健全な体と精神を維持する必要性は認識しながらも自分に甘くなりがちで付き合ひの良さに反省する時があります。

前議長が退任のあいさつの中で、職務を全うするには何より健康に留意してきた4年間であったと言われました。だれしもが健康には配慮していますが、さらに配慮を重ねて任務を全うしたいと思っております。

総務文教常任委員会



委員 八柳良太郎 副委員長 門脇民夫 委員長 田口寿宜



委員 佐藤大成 委員 平岡裕子 委員 真崎寿浩

市民福祉常任委員会



委員 高久昭二 副委員長 黒沢龍己 委員長 伊藤邦彦



委員 荒木田俊一 委員 小田嶋忠 委員 小林幸悦

産業建設常任委員会



委員 熊谷一夫 委員 大石温基 委員 阿部則比古 委員 稲田修 副委員長 高橋豪 委員長 安藤武

予算常任委員会

- 委員 八柳良太郎
- 副委員長 熊谷一夫
- 委員 佐藤大成
- 委員 高橋豪
- 委員 門脇民夫
- 委員 平岡裕子
- 委員 田口寿宜
- 委員 大石温基
- 委員 阿部則比古
- 委員 黒沢龍己
- 委員 小田嶋忠
- 委員 荒木田俊一
- 委員 安藤武
- 委員 小林幸悦
- 委員 伊藤邦彦
- 委員 真崎寿浩
- 委員 高久昭二
- 委員 稲田修

議会運営委員会

- 委員長 小林幸悦
- 副委員長 真崎寿浩
- 委員 高橋豪
- 委員 門脇民夫
- 委員 黒沢龍己
- 委員 安藤武
- 委員 八柳良太郎

議会広報編集特別委員会

- 委員長 阿部則比古
- 副委員長 熊谷一夫



今年度から国旗を掲げることとしました

大曲仙北広域市町村圏組合議会議員

- 副議長 青柳宗五郎
- 議員 安藤武
- 議員 八柳良太郎
- 議員 阿部則比古

議会選出監査委員

- 委員 小田嶋忠

- 委員 佐藤大成
- 委員 高橋豪
- 委員 門脇民夫
- 委員 黒沢龍己
- 委員 小林幸悦
- 委員 真崎寿浩
- 委員 高久昭二

第3回 仙北市議会6月定例会

副市長選任案に同意
全議案原案可決

一般会計補正額2億471万7千円
補正後予算183億5,664万1千円に

19 案件を審議

6月定例会は6月6日から27日までの22日間の会期で開催された。

提出案件は報告案件6件、条例改正1件、補正予算5件、工事請負契約1件、財産区管理委員同意案件2件、人権擁

一般会計補正予算の主なもの

生活困窮者自立支援制度施行円滑化事業費 114万円

温泉郷魅力向上人材育成事業費 400万円

森林整備地域活動支援交付金事業費 315万円

企業誘致対策事業費(株司食品工業用地取得買収費) 9700万円

田沢湖一般廃棄物最終処分場搬入路整備事業費 2000万円

コミュニティ助成事業費 266万円

F1Sフリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会負担金 3000万円等

護委員の推薦諮問案件1件に加え、最終27日に副市長の選

任同意案件、議員提出案件2件の合計19案件が審議され全

て原案可決。(副市長選任案は無記名投票の結果、議長を除く全議員のうち、賛成13反対5で同意し)閉会した。

会期中の各会計の議論 主なものは

1 一般会計

① 用 地買収と造成を市が行って当面、貸与する事への妥当性
② 今だに司食品が自ら現地法人を立ち上げない真意
③ 進出に対する覚書の有効性の根拠
④ 今後の企業誘致と地元企業支援との整合性等が議論になった。

2 病院事業会計

市の方針の中で市立田沢湖病院、角館病院それぞれ25年度決算見込みが報告された。田沢湖病院が1億141万円、角館病院が5千912万円の純損失を計上する。特に田沢湖病院の単年度赤字が1億円の大台を突破した。当局から一切

の具体的解決策が示されないまま膨らみ続ける純損失であり、経営規模からしてこの多額赤字は理解に苦しむとの声が議会内にある。新角館病院の建設費が労務費や資材の高騰、消費税によって積算額が3億円増え、来年度増額分を予算計上する旨の説明があったが、当初計画より都合約20億円の増加になり、建設費のみの総額が約64.5億円になる。今後の更なる資材費の高騰や入札不調等の不安要因も抱え、病院建設によってどこまで財政圧迫が進むのか厳しい状況になっている。

3 温泉事業会計

ここ数年全体の出湯量が減少しており、新規のボーリングも有望箇所が温泉組合の反対によって困難になり①カラ吹き2号源泉の蒸気導気管の浚渫(内面の硫黄スケール等の削り取り)②各所給湯管の高断熱管への更新及び浚渫③ポイラーによる昇温④水沢温泉から余剰源泉を買い取り分湯槽への給湯⑤失敗のリスクを犯しても反対のない箇所へのボーリング等の計画説明があったが長期的に見た場合、地震による地殻変動やマグマの動向、深度地下水の変化に



純損失1億円を超える赤字の田沢湖病院

よる出湯変化は避けられず、議会内にはこうした不安定な事業を自治体が運営することの難しさを指摘する声もある。

4 水道事業会計

西明寺地区簡易水道拡張整備事業の契約締結が議題になった。神代地区北部への簡易水道敷設延長に伴う給水設備の新規増設。西明寺低区浄水場（小淵野山崎地区）に隣接する形で低区第2浄水場を建設するもの。浄水場本体は「水道機工（株東北支社）」他、土木、建築、配水場等を地元A級業者に分離発注する。総額で約6億円の予定額。

給水量は220t/日で西明寺高区浄水場から延伸した東前郷地区と合わせて神代地区北西部に配水する。しかし全て完成してもなお神代地区全体の4割前後の網羅率に過ぎない。神代地区は周囲に高い山のない地形から、良質の

大量の地下水を地区内から確保するのは望み薄であり。今後は玉川の河水水を浄化するが、自然落差で給水可能な生保内地区の余剰分を延伸して配水すべきとの声も。

（阿部則比古記）

予算常任委員会報告

6月18日本会議より付託された案件は議案第69号である。19日～20日の分科会審査を経て6月25日に分科会報告、質疑の後討論採決が行われた。（各分科会の質疑は、委員会報告にて記載）

■議案第69号一般会計補正予算（第1号）
反対討論

いかに企業誘致といえどもこれだけの一般財源の投下が市民の為になるのか不明である事から、当該経費を一時凍結又は、限度額を定めて減額修正すべきである。

賛成討論

進出する企業の操業に当たり、臭気や地下水への影響が懸念される事から、地域住民への情報開示をしっかりとお願いしたい。企業誘致の手法として、今後の進め方について、市の明確な方針を早期に策定すべきである。との意見を付す。

【採決】

賛成多数で可と決定

（熊谷一夫記）



既設の西明寺低区浄水場

平成26年 第3回 仙北市議会定例会賛否が分かれた議案（招集日：6/6 最終日：6/27）

凡例：賛→賛成、反→反対 欠→欠席 退→退席（議長は、法律に定める特定のケース以外では表決をしないことになっています）

議案番号	会派及び氏名等 件名	議決月日	議決結果	仁政クラブ					民政会議				翠巒会			市民クラブ		会派に属しない議員			
				黒沢龍己	田口寿宜	佐藤大成	高橋豪	稲田修	伊藤邦彦	阿部則比古	安藤武	門脇民夫	小林幸悦	真崎寿浩	荒木田俊一	大石温基	八柳良太郎	小田嶋忠	平岡裕子	熊谷一夫	高久昭二
				議案第68号	仙北市国民健康保険税条例の一部を改正する条例制定について	6.27	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛
議案第69号	平成26年度仙北市一般会計補正予算（第1号）	6.27	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	反	賛	賛	反	
議案第73号	平成26年度仙北市水道事業会計補正予算（第1号）	6.27	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	
議案第75号	土地の取得について	6.27	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	反	賛	賛	反	

一般質問



・人口減少の問題について

仁政クラブ 田口寿宜 議員

人口減少の問題について

質問 2040年に予測されている本市の人口は1万6743人となっている。この流れに任せるのか、維持していきたいのか。維持するお考えであるなら具体的な数字をお示し頂きたい。

答弁 このままではいけない立場である。

1万6千人台で良しとするものではない。数値は、この後の施策で大きく左右されるものと思っている。

質問 その施策について、産業振興、雇用対策の



次代を担う子ども達

観点から考えたい。調査したところ、市の第三セクターが行っている食材の仕入れについては、市内業者の割合が非常に低い。また、市内にも専門業者がいるにも関わらず、市外の業者のみでの入札が行われたりしているという声もある。このような現状を改善することで、市内の小規模・零細企業が活躍できる機会を増やし、人口流出の抑制につながる必要があると考えるがどうか。

答弁 市内の第三セクターに対しては、地元業者の利用について再三話しをしてきた。食材仕入れの市内発注率は半分以上と認識している。しかし、それが経営を圧

迫し、赤字経営を強いられるのは避ける必要がある。入札に関しては、当然に品質を求めることなどから、実績等を考慮し審査している。優先制度に基づき市内業者を優先することが鉄則であるが、独占禁止法に抵触するのではとの指摘もある。市内業者においては積極的な営業を行い入札に参加して頂きたい。

質問 企業誘致に対する考え方はもはや転換期を迎えている。欧米では本社のほとんどが地方に存在していると伺っているが、本市への本社誘致という視点も検討すべきではないのか。

答弁 国でもそういう動きを推進しているが、企業にとつては東京に本社を置いたほうが、メリットが大きいと判断しているようである。一方では、市内で操業している誘致企業の中にも、東京には営業機能だけを残り、本社機能のほとんどをこちらに移している企業もある。仙北市でもこの動きを加速できればと考えている。

地域の拠点づくり

質問 市内それぞれの集落では地域コミュニケーションの維持、元気の創出に

努めている。集落や町内会等で組織されている地域運営体も、今後、果たす役割が大きくなるものと考えている。地域運営体を核に、市役所・出張所などを拠点とし、行政と運営体が協働で地域づくりに取り組むべきと考えるがどうか。

答弁 地域運営体に様々な機能を更に担って頂くことは重要な視点である。それぞれの地域運営体の拠点は、今よりもっと出入りしやすいようオープンしていく必要がある。また、今後拠点となる施設を再確認し、活動目的のヒアリング等も行いたいと考えている。

お年寄りの居場所づくり

質問 昨年10月1日現在において、市内全域で、65歳以上の高齢者ひとり暮らし世帯は1287世帯、高齢者のみで暮らしている世帯は1087世帯あるが、今後更に増加することが予測される。病気になる場合や、介護が必要な場合、特に要介護度1、2の方々の居場所づくりをもっと積極的に考えて行く必要があると思うがどうか。

答弁 将来この層の方々がれる中であつて、現状のままに対応することは難しいと考えている。新たな地域包括ケアシステムの構築で、地域の医療機関と福祉事務所が連携し高齢化社会を支えたい。その一方で、自宅で介護を受けたいと希望する方々は全体の70%を超えている。先進的な取り組みの例として、長野県のある地域では、地域の会館などを改修して、高齢者の方のみならず、託児所機能も併せ持つ「宅老所」という施設を開設している。こうした取り組みも参考にしていきたい。

(黒沢龍己記)



高齢者を支えるグループホーム

一般質問



本市でペレット生産の活用
本市の森林資源の活用
による雇用の拡大

議員 阿部則比古 民政会議

木質ペレット生産で本市の豊富な森林資源の活用による雇用の拡大を
【質問】 昨夏、「里山資本主義」と題する一冊の本が発表され、大変な反響を呼んでいる。山林を計画伐採し、ペレット状の燃料にして永久に火力エネルギーを得るといものだが、全国の山林で灯油換算・年間4兆円、仙北市山林でも年間150億円生産可能という試算もある。伐採から製品化、販売まで含めると千人前後の雇用が期待出来る。日本の輸入赤字・エネルギー

ギー安全保障・燃料の今後の高騰を考えると国もこの方向にいいよ動き出す。国際的な先進地オーストリアに職員を研修させて研究してはどうか。

【答弁】 「里山資本主義」では過疎地が未利用資源の宝庫という捉え方をしており、私の共感するところである。

ご指摘のオーストリアのギユツシングを中心とする木質ペレットの取り組みは、ペレット工場からタンクローリーでペレットを各家庭や施設に配達する仕組みで、希望する時間にボイラーのスイッチをセットしておく自動的



普及が期待されるペレットストーブ

を熱源にした大きなエネルギーセンターの給湯設備から各家庭や施設へ配管で給湯や熱源が供給されるシステムである。

このシステムを通産省の再生可能エネルギーのスマートシティー構想で導入する事業があるが、現在進行している再生可能エネルギーの現状があり躊躇する。いずれ、今後の世界観を変えるエネルギー対策であり、また、まちづくりの基幹的な考えになることは間違いないと考えている。

合併時の旧町村将来計画の検証・総括は

【質問】 合併時に旧町村が将来の事業計画を持ち寄って、新市の建設計画が策定されたが、これまで検証や総括が一度もされていない。これについての市長の考えを伺う。

【答弁】 新市建設計画については、新市の将来像、基本理念などを定め、それに基づくまちづくりの方針、具体的には四つの目標と財政計画等を掲げている。

具体的な事業については、新市建設計画の基本理念を継承し、仙北市総合計画の策定、さらに実施計画で三カ年

のローリング方式による進行管理、複数段階での事業振興等を行ってきている。

総合計画の中の基本計画については、平成22年度末において、前期分の実績分析を行いその後の実施計画の資料として。また、各地区に設置された地域審議会で、各地域ごとの課題等について具体的なテーマを設け審議し施策への反映を図っている。

建設事業費の激減による就労機会の減少で人口減少が著しいが

【質問】 門脇市政になってから西木地区の建設事業費が合併前の5分の1に激減したため建設業に携わっていた方の就労機会の減少から人口減少も非常に著しい。国の各省庁や県などからさまざまな補助事業のメニューが随時提供されているが、こうした情報を素早く収集し、分析して、本市に適した事業をいち早く押さえるという、基本的な職務が的確に行われてきたのか伺う。

【答弁】 建設事業費は合併当初の平成17年度から21年度までは30億円台で推移し、平成22年度から24年度までは15億円から17億円台と半減し

ている。この要因は統合角館小学校、汚泥処理センター、神代小学校、木質バイオマス施設の建設等の多くの大規模なプロジェクトが終了したことと財政状況の改善ということもある。

西木地区の建設事業については、合併前に国からの補助事業に有利な過疎指定地域だからこそがあったと思うが、生活環境の整備を優先して安全・安心な食糧生産を行うという哲学を持った政治リーダーがいたことで、次世代を先取りして下水処理・水道施設、道路事業等のインフラ整備が角館・田沢湖地区より早く進展した。そのため新市になってから市内全域の均衡ある発展を図るため両地区のインフラ整備に多くの予算をかけているが、地域バランスを欠くような予算配分や恣意的な思いはない。

交付税の減額、市税の減少など歳入構造が硬直する中で、その構造転換に努力している真つ最中で、全額国庫補助、また補助率の高い事業の導入など、市の財政を圧迫しない影響の少ない国・県事業の導入を進めている状況である。

(門脇民夫記)

一般質問



・市道の除雪体制の改善について

翠巒会 大石温基 議員

市道の除雪体制の改善について

質問 各世帯において家の前の入口付近へ道路の除雪した雪が残って困っている話を多数聞か、除雪時間帯の変更や除雪機械の改良等により改善はできないものか。

答弁 市が管理する道路は四八一・五km、路線数一一四二路線、委託業者33社、委託運転員89名の体制で平成25年冬期は除雪を行ってきた。

主要道路を主体としてバス路線、通勤・通学路の除雪を優先的に実施して、朝7時をめぐりに終了する行程で除雪を行ってきた。

時間的な制約や市道の除雪ポリウム等を考え合わせるとこのような状況が発生してしまうということが現実的な話と感じている。

原則的には、残された雪の処理は、各世帯での対処をお願いするものではあるが、そのような状況をつくらぬように、シーズン前の除雪会議等の場で除雪委託業者に対し配慮をお願いしているところである。

除雪機械の改良等については、排土板へのアタッチメント等について、対応ができれば装着を考えていきたい。

市道認定の基準について

質問 高齢化世帯、一人暮らしの世帯が増えている中、市道からその世帯までの道路が市道認定になっておらず、冬期間や緊急時等、不便を強いられる場合が見受けられるが、安心して安全に暮らせる環境づくりのため、市道認定の基準を改めることはできないのか。

市道認定基準は、集落の相互を結ぶ道路であるとか、二戸以上の住宅に通じる道路であるとか、要件は決まってはいるが、生活圏を守る手段として公費の投入しか改善の余地はない事案については、別の手法も考えあわせて、ケースバイケースで対応していきたい。

答弁 市道認定基準は、集落の相互を結ぶ道路であるとか、二戸以上の住宅に通じる道路であるとか、要件は決まってはいるが、生活圏を守る手段として公費の投入しか改善の余地はない事案については、別の手法も考えあわせて、ケースバイケースで対応していきたい。

質問 家庭排水等の集合処理が出来ない地域においては合併処理浄化槽が普及してきているが、近年その増加に伴い、設置された場所の下流部の水路において悪臭が発生し、地域住民から苦情が寄せられているというケースがあるが、行政としてその対策は出来ないものか。

答弁 合併処理浄化槽からの排水は、設置した世帯等での対応ということが原則ではある。

個別の対応というかたちで可能なことがあるとすれば考えていきたいが、それも出来ない状況である。

行政が支援できることとその地域でやるべきことのすり合わせをおこない、今後のことを考えていきたい。

質問 神代地域の上水道未普及地区の今後の対応について、現在は新たな水源としてボーリング調査等を行っている状況ではあるが、

生保内の浄水場からの水を利用するなどして、事業を早められないものか。

答弁 今年度予算で水源確保のための揚水試験を行う事となっているが、水源を定めなければ事業は進まないで、その結果も考慮しながら方向性を定め、事業を進めたいと考えている。

(真崎寿浩記)



アタッチメント付きの除雪機械



浄化槽から流される生活排水路

一般質問



・さくら祭りについて

市民クラブ 八柳良太郎 議員

さくら祭りについて

質問 今年のさくら祭りは「よかった」との声があるが、実行委員会はどう評価しているか。(観光客入込数や経済効果等を含め)

答弁 桜まつりは昨年同時期比76,000人多い122万6,000人のお客様を迎え、松木内川堤のソメイヨシノも見事に咲き、交通事故、渋滞等もなかった。刺巻のミズバシヨウ、八津・鎌足のカタクリ群生も合わせ花紀行仙北市の春を満喫された。

質問 合併の基本理念「観光産業を生かしたまちづくり」との関連、武家屋敷保存・維持に対する住民の理解と協力はどうか。

答弁 角館町全体の案内表示のあり方、休憩所、トイレ清掃等改善課題もあり、武家屋敷の開放、歩行者を含め、地元住民の御理解、御協力で実施しているが、5年後、10年後将来的展望も含め未だ議論されていない。

質問 駐車場の受入れ台数にも課題がある。また、丁寧な対応や、農地の駐車場の活用や、公的駐車場の案内地図作成などを行い、滞留時間を延ばす必要があると考えるがどうか。また、JR角館駅から武家屋敷までのトイレが少ないことも課題であるが解決策について伺う。

答弁 大規模渋滞が発生しなかったのは、民間駐車場開設がその一翼を担った。国民文化祭を控え、トイレの設置についても再考したい。

質問 出店の収益について把握するため、税務には使用しない前提で、自主申告をお願いする事はできないか。

答弁 出店者の収益は天候に多く左右される。正直なところ収益を自主申告し頂くことはばかられる。

秋田仙北夢牧場について

質問 平成25年度大規模肥育牛団地整備事業(仙北夢牧場)について、雇用者数の状況や、肥育牛出荷の現状について伺う。

答弁 仙北夢牧場では、6月3日に交雑種28頭を秋田市場と横浜市場に出荷

し、B2、B3の格付けを頂き、市場平均価格を上回った。夢牧場では、現在雇用者数は3名であるが、食肉は、レストラン、旅館から既に引き合いがあり、今後ステーキハウス等を展開した場合など、更なる雇用が期待される。

国民文化祭について

質問 第29回国民文化祭(10月4日~11月3日)が開催されるが、さらさら太鼓競演会の意義について伺う。また、期間中の参加人数や宿

泊者数などはどのように見込んでいるのか。

答弁 (教育長) 国民文化祭民族芸能祭典は約1万人規模予定している。(県全体では約30万人) 10月12日に田沢湖芸術村で「青少年東北民俗芸能の祭典」、10月26日には「飾山ばやし・仙北市さら大競演会」を催し、仙北市の文化を全国に発信したい。また、宿泊人数は大正琴奏者約1,300人と関係者を予定している。

(高久昭二記)



多くの観光客でにぎわった桜祭り(松木内川堤)



国民文化祭の看板(角館駅前)

一般質問



・人口の減少を踏まえた政策の転換について

高久昭二 議員

質問 人口減少が著しく、財政運営も厳しくなる中、市長の政策についても方向転換が必要ではないのか。

答弁 人口減少に歯止めがかからない状況であるが、経済対策と一体的に定住対策や、雇用環境の整備による基盤確立等の政策に取り組んでいる状況にある。政策を進めるにあたっては、一定期間実施した事業結果を検証し、次の施策に生かすこと、あわせて、常に国・県の

動向や社会情勢の変化を感じ取り、実施時期を的確に判断することとしている。市を取り巻く環境、財政状況、行政需要の変化を考慮した上で毎年政策の見直しは行っているが、市の発展のためには、どの施策も同時に進めなければならぬものばかりである。財政状況等に大きな変化がある場合を除いては、現在進めている市政の軸となる政策は継続して行くが、総花的にならない財政運営に努めたい。

質問 (株)食品工業の誘致に対する市の対応について

質問 市は昨年8月から、株式会社司食品工業を誘致するため、企業誘致推進室を立ち上げ、秋田工場の誘致建設に向けて動いている

が、用地買収や造成を始め、過去に例を見ない程の優遇措置が施されている。今回の工場用地を選定するにあたり、どのような判断があったのかについて伺う。また、これまでに市ではこの案件について既に2億1千万円もの一般財源を拠出しているが、この先さらにどれだけの支出を考えているのか伺う。

答弁 用地について企業側が希望する内容は、地

下水があることと、面積を2万5千㎡〜3万㎡確保したいという内容だったため、そうした要件に合致する場所を数カ所視察頂いたが、いずれも適さないという判断だった。その後、企業側が国道に沿った箇所を希望したため、再度視察を行って先方社長が現在の箇所を指定した経緯がある。また、市では工業団地を所有していないが、考え方は同様に進めたいという思いもあり、今回の誘致に際し、用地取得や造成、インフラ整備を実施することにした。さらに、企業立地促進条例に基づいた固定資産税相当の奨励金なども予定されている。市が取得した土地はスタート地



(株)食品工業建設予定地

点では賃貸を考えている。企業の進出があったことで得られる財政的なメリットについては、直接的には固定資産税、地方消費税、法人市民税、雇用の市民税、雇用の市民税、雇用の市民税の所得などを始めとし、年間1億円程度の財政効果が期待される。さらに原料の提供、燃料の提供、取引先や視察者など会社訪問のビジネス需要も地域経済にプラスの影響を与えると考える。

質問 角館庁舎の老朽化対策と本庁舎整備について

質問 本年2月に、市内の各庁舎の耐震診断結果

が出されたが、市ではそれを受け、老朽化が著しい角館庁舎については一部危険性が高い箇所を立入禁止にするなどの対応を講じている。今後、角館庁舎は移転改築し、既存の公共施設の活用や、民間施設等の利用も含め、本庁舎機能を持った庁舎にすべきと考えるがどうか。また、火除けの復元についての考え方も併せて伺う。

答弁 一つのアイデアとして受け止める。現在、庁舎整備基本構想の核となる統合庁舎の場所や整備手法等を選定するにあたっての関連基

礎データの収集、検討作業を進めている最中である。いずれ素案を示すので協議して頂きたい。

指摘のあった角館庁舎の移転、一体型庁舎の整備並びに火除けの復元については、それぞれが密接に関係する事案であり、切り離して考えることが難しい。こうしたことから、構想の中では、一体型庁舎の整備のみならず、すべての庁舎の考え方も含むことにしている。角館庁舎移転等の方向性については、先の耐震診断調査の結果において、IS値が極端に低く、仮に耐震補強工事を実施する場合は、建物内部に増設耐震壁を設置しなければならない。建物内部に耐震壁を設置すると、非常に使い勝手が悪くなつて、庁舎としての機能や市民の利便性を大きく損なうことが予想される。このような状況のため、現角館庁舎は取り壊しの方向で検討をしている。また、庁舎解体後の火除け復元については、かなりの検討が必要と考える。角館の歴史的背景であったり、将来のあるべき姿であったり、将来の考えた上で復元させてきたい。

(高橋豪記)

一般質問



・(株)秋田仙北夢牧場について

仁政クラブ 黒沢龍己 議員

仙北夢牧場について

質問 仙北夢牧場は当初の計画通り順調に実施され、運営されているのか、また、現在の状況と事業の狙い、効果について伺う。

答弁 現在（平成26年6月）の頭数は、交雑種167頭、黒毛和種が292頭の459頭となっている。来年の4月から5月に600頭になる予定である。

また、経営面でいうと、口蹄疫の発生、子牛生産の不足、世界的な飼料の値上がり等に伴って、当初計画よりも厳し

い状況にある。しかしながら、県、JA、金融機関等との、サポート体制は万全である。

去る6月3日には、交雑種28頭が出荷され、市場平均価格を上回る価格で取引されている。今後、交雑種は12月に出荷を終え、全て黒毛和種に切り替わる予定である。

質問 仙北市産の子牛が、黒毛和牛、肥育牛として出荷されることが夢牧場と畜産農家の連携が図られると思うし、そこに期待している。地元の子牛は何頭買入れしているのか伺う。

答弁 6月現在で、268頭中69頭である。

質問 稲わら、飼料用米にたいして、今年はそのくらいの数量が仙北市の農家から搬入できるのか伺う。

答弁 生産農家において収穫、供給に必要な機材が不足しているという実態があり、現在は市内の農家からの粗飼料の搬入は行われていない。地域の経済活動の支援の観点から、今後夢牧場と供給等について、交渉し、目標設定を行い、機械導入等の事業についても検討し、地元生産の粗飼料提供の実現を目指す。

質問 堆肥の無償提供の時期、量について伺う。

答弁 牛舎竣工の遅れ等があり、ご迷惑をお掛けしているが、今年の秋口から供給が可能であると見込んでいる。また、来年度から堆肥処理施設の整備計画に着手し、良質の堆肥生産を進めていきたいと考えている。

中川地区公共施設の上水道について

質問 中川地域には小学校、保育園、集落センターの3つの施設があり、全て地下水を利用している。年間を通しての水質は、良い時も悪い時もあり、子供達は先生の指導に従っている状況である。昨年には、寺沢地区まで

配水本管が敷設されている。そこで、今後3施設の上水道整備計画について伺う。

答弁 小学校については、投資効率の面から若神子線を利用する予定である。保育園の計画については、平成27年度に、実施する予定である。また、集落センターについては、水道ポンプの老朽化に原因があり、現在は準備段階である。

NHK全国「のど自慢」の開催について

質問 仙北市は、合併して10年を迎えようとしており、観光産業も売りの一つとしている。今後の観光客を呼び込む手段として、NHKの「のど自慢」の招致も一方

策と考えるが、市長の見解を問う。

答弁 以前から市民からの要望も強く、昨年からは合併10周年記念事業という形で招致が出来ないかということで、昨年からはNHK秋田放送局にトップセールスを行っている。仙北市は、過去に開催実績があること、市民会館を有していることから、開催にあたっての条件はクリアし、一定の評価を得ている。現状では、競争率が高く、各県への配分等のバランスもあるということであるが、開催への働きかけを引き続き継続していく。

(佐藤大成記)



出荷前の肥育牛



無償提供する堆肥



総務文教常任委員会

本会議において審議を委任されたのは、生保内財産区特別会計補正予算1件、請願1件計2件である。

また、予算常任委員会より平成26年度一般会計補正予算の内、当委員会に係わるものの審議を委任された。

生保内財産区特別会計補正予算

【歳出】

問 財産区の発行する広報紙の内容について

答 地域の方々から財産区の活動が見えにくいとの指摘を受け、管理委員から、財産区の土地の利活用の問題など、写真等を使って広く住民に周知していきたいとの提案があり、カラー印刷で、年2回の発行を予定している。

問 分収林交付金の歳入財源である、間伐材について、ア、今回間伐された杉は植林後何年経過したものか。イ、間伐材の市場状況について

答 今回の間伐材は植林後30年を経過したものであるが、間伐に関して補助金を受けら

れるのが植林後30年以降となっており、いったん補助金を受けると5年間は同一補助金を受けられない。その為、最終的には良質材を生産するため、年次計画をもって、5年、10年のスパンで販売できる材の間伐を実施している。また、木材価格については、4月からの増税の関係で、3月の段階では上がっていたものの、4月に公売した間伐材については下がっている。5年、10年前と比べると若干落ち込んでいく状況である。

○採決の結果

委員全員の賛成で生保内財産区補正予算は承認され本会議へ送られた。

○請願

少人数学級の推進などの定数改善と義務教育費国庫補助金負担制度2分の1還元をはかるための、2015年度政府予算に係わる意見書採択に関する請願書

請願の趣旨に賛同し委員全員の賛成で請願書は本会議へ送られた。

予算常任委員会総務文教分科会 平成26年度一般会計補正予算

○総務部関係

【歳入】

問 財政調整基金からの繰入金9700万円について

答 予算目的イ、財政調整基金から支出できるとした基金条例のどの項目に該当するか。ウ、繰越金や他の財源を検討したか。

答 ア、田沢湖生保内黒沢地内に誘致が予定されている食品の敷地造成費に充てるためである。イ、緊急に実施する事が必要となった大規模な土木その他の建設事業の経費、その他やむを得ない理由により生じた経費の財源に充てるときに使用できる項目に該当すると判断した。

ウ、繰越金については、25年度の会計の確定が5月31日のため、5月中旬の予算査定時点では不確定な段階で危険と判断した。また、普通交付税については、交付確定が7月中旬のため見込めなかった。

※この件に関して総務文教分科会の総意として「緊迫した財政状況の中、貴重な財源で

ある財政調整基金からの、今後の繰り入れについては、慎重かつ計画的な運用を検討すべきである。」との意見を市当局に申し入れた。

【歳出】

問 集落集会所建設事業費補助金について

答 角館雲然の集落会館の屋根修理に係る経費の2分1を補助するものである。

問 集落集会所建設事業費補助金制度の内容について

答 新築の場合は建築費の2分1で、上限120万円まで、増改築の場合は2分1で、上限60万円まで、また、下水処理で浄化槽設置の場合は、2分1で上限60万円まで、公共下水道に接続する場合は2分1で上限30万円まで補助金が支給される。

○教育委員会関係

【歳出】

問 公民館費、コミュニティ助成事業費について

答 宝クジ協会からの助成金で、自治総合センターから県経由で交付され角館公民館にビデオカメラ一式、ブルーレイプレイヤー、スクリーン、展示パネルポール、ポータブルワイヤレスマイク等放送機器の各設備を購入する予定で

ある。
問 FISフリースタイルスキーワールドカップ秋田たぎわこ大会負担金3000万円について

答 ア、県では26年度当初予算に計上しており、市の予算措置が遅いのではないかと、他の関係団体の負担金について

答 ア、県では26年度当初予算に計上していたが、本市ではFISの確実な情勢を見極めた上で予算措置をしたので、今回の補正予算となった。イ、県が6000万円、広告等の協賛金収入が4000万円予定されている。

問 地元企業からの協賛金はあるのか。

答 協賛金の募集はスキー連盟、県が中心となっており、市は把握していない。

(門脇民夫記)



田沢湖スキー場開催
フリースタイルスキー全国大会



市民福祉常任委員会

本会議より付託された議案は2件、予算委員会からは、一般会計補正予算の内、当分科会に関するものが分担された。

■議案第68号

仙北市国民健康保険税条例の一部改正条例

全会一致で原案 可

億3,700万円については過疎債、病院事業債で手当てをすることで県との協議が済んでいる。

問 工事の仕様内容を見直した結果として、材料等の変更や設備の取り止めにより予算を減額したということだが、使う機材や材料等のグレード

を落としたのか。
答 使用材料は同等で安いものを検討し、約5,400万円減額したがグレードは維持している。

また、電力ピークカット用常用発電機は重油等の高騰により契約電力容量アップと変わらなくなったことや、冷暖房用地中熱設備についても試算の結果、効率が良くないということで取りやめた。
問 地元業者が少しでも有利

な形で建設工事に参加できるような配慮をしているのか。

答 地元業者がJVを組んで施工することは可能と思うが、建設業の積算価格が上がっている。遅れば遅れるほど費用が掛かり増しになると考えているので、できれば9月の着工に漕ぎ着けたいと思っている。

入札不調になった場合、設計変更等で、さらに半年くらいかかってしまうので、あまり細かい縛りを付けないで応札しやすい形としたい。入札不調だけは絶対避けたい。
全会一致で原案 可

■議案第9号

仙北市一般会計補正予算 市民生活部関連 廃棄物処理手数料(歳入)

問 大仙市で行われるクリーンアップの時に、出た側溝のド口を角館最終処分場で受け入れた際の手数料であるとの説明を受けたが、受け入れた経緯と来年度以降の受け入れについて伺う。

答 平成22年までは大仙市内の最終処分場で処理していたようであるが、処分場の設備等に影響があり、安定した処理が困難となり、専門業者に委託していたが、今後受託で

きない旨の打診があり、当市に依頼があった。内容を検討した結果、当市の処分場での処理が可能であり、安全な廃棄物と判断して4月から受け入れている。
来年度以降についても、大仙市で困っているようであれば、打ち合わせをしながら、容量と安全性を確認したうえで対応したい。
福祉保健部関連
生活困窮者自立支援制度 施行円滑化事業費
概要説明 生活保護に至る前の困っている方々の相談に応じる事業等が来年度スタートする為の準備作業
問 元々の財源は国庫交付金で、県で基金を設けて自治体へ補助金交付しているが、国から県へ交付された額はいくらか。また、各自自治体への交付基準はどのようになっているのか。
答 今年2月の段階で県への内示額は3,900万円であった。県からの補助金は、福祉事務所を設置している自治体に人口割で交付されている。

(小林幸悦記)

■議案第71号

仙北市病院事業会計補正予算

概要説明 角館総合病院建設事業費が基本設計終了後に見込みを上回る労務費及び材料費等の高騰により工事見積り額が上昇してしまった。工事の仕様、内容等の見直しをしたが、中核病院、災害拠点病院としての役割を果たすためには工事費の増額が避けられない状況であり、3億円の補正をお願いしたい。

財源について県を通じ、厚労省に直接お願いしたところメンタルヘルス病棟(精神科)の整備による補助金6,300万円の内示があった。今回増額分3億円の残り2



市立角館総合病院建設概要図



産業建設常任委員会

産業建設常任委員会に本会議より付託された案件は議案4件、請願1件、予算常任委員会から分担された案件は、議案1件である。

係、配水場、非常用発電機、導排水管関係の工事となり、議決後から平成27年3月25日までの工期となっている。

■議案第72号

平成26年度仙北市温泉事業会計補正予算（第1号）

問 市の温泉事業において新たな源泉掘削についてはどのようなになっているのか。

答 新たな源泉掘削については、乳頭温泉郷から反対の意見が出されている。そのため、候補地については、乳頭温泉郷の方々からの同意が得られるような場所を選定する必要がある。国立公園内になるが、高原地区付近の調査を検討したい。

■議案第74号

工事請負契約の締結について

問 水道未普及地域解消事業のための今回の工事について、工事内訳と工期についてはどのようなになるのか。

答 大きく分けると浄水場関

■議案第75号

土地の取得について

問 (株)司食品工業誘致のための土地取得となるが、土地取得後の管理についてはどのようなになるのか。

答 公有財産の内、行政財産として取得し、造成工事完了までは観光商工部の所管において管理される。その後については、企業側に賃貸する予定であり、普通財産に差し替えた上で管財課が管理することになる。

■議案第73号

仙北市水道事業会計補正予算（第1号）

◎議案4件については全会一致で可決した。

■平成26年度仙北市一般会計補正予算（第1号）

農林水産業費
農地制度円滑化事業費、機構

集積支援事業費について

問 荒れている農地が目立つが、農地パトロールによる調査の後、どのような形になるのか

答 今回の調査で、農地中間管理機構に農地を貸すか、自ら耕作をするかの意思確認をした上で、貸付の希望があれば、農業委員会がその旨を中間管理機構に通知し、その後機構が所有者と協議することになる。また、所有者が耕作、貸付の意思がない場合は、機構との協議を勧告し、応じない場合であっても、機構が県知事に裁定を申請をしてその後利用権を設定できる。不在地主など、これまで対応不可能だった農地についても対応可能であり、耕作放棄地を無くすための事業である。

商工費

企業誘致対策事業費について

問 (株)司食品工業の誘致に関する土地造成の予算であるが、これまでの用地についての調査や、今後の事業内容について

答 対象用地は、煩雑な土地ではあるが、会社側の意向に沿った。実際には年内に造成工事を完了させ、来年の3月から工場建設に入るスケ

ジュールとなっている。

問 工場建築の総事業費が当初より増額になるとの説明だが、具体的内容については。

答 当初3ラインでのスタートを予定していたが、これを5ラインに増やすことになった。また、工場から出る廃棄物については、当初八戸の工場に運んで処分する予定であったが、その間に腐敗してしまう恐れがあるため、敷地内に乾燥、粉碎の施設を造り、それを肥料に加工する循環型の施設の建設も加わった。ま

た、環境に配慮し、重油から、液化天然ガスを使用することとしたというのが主な変更点である。廃棄物再処理施設については、公害防止協定を企業側と締結し環境基準を定めたい。

※山岳事故防止を

秋田駒ヶ岳において先に発生した2件の死亡事故を受け、今後の事故防止対策の強化について市に対し申し入れを行った。

(高橋豪記)



(株)司食品工業予定地現地視察

全国市議会議長会表彰

本定例会において、青柳宗五郎議長が副議長として4年以上、伊藤邦彦議員と安藤武議員が通算10年以上市制発展に（旧町村時代を含み）尽力された功績を称えて、全国市議会議長会より表彰されました。おめでとうございます。

○昭28年2月16日・旧田沢湖町生まれ。早大卒・昭和52年旧田沢湖町役場入り、平成17年の合併後、教育次長、農林部長、総務部長を歴任、昨年度市役所退職。
田沢湖生保内字下手倉31の1



新副市長

倉橋 典夫氏
くらはし のりお

○横顔
趣味・▽読書▽畑仕事、趣味で茄子やキュウリを栽培する傍ら一昨年からいちご栽培に取り組み、今年は満足のゆく実をつけたと言う。知人、友人の評は温厚篤実、しかし表面からはうかがい知ることの出来ない硬骨漢な一面もあるらしい。一女、一男のパパ、ご長女は嫁ぎ、現在奥様とご長男、奥様のご母堂の四人暮らし。

(阿部則比古記)

表紙の説明

昨年8月の記録的な豪雨に伴う土石流と大量の杉流木によって6名の尊い犠牲者を出した先達・供養佛地区の土砂崩れ現場に集落民念願の二次災害を防ぐための、砂防ダムが完成し、去る6月29日に完成式典が行われた。国の直轄事業として4億3千万円を投じて約7千万メートルのコンクリートが打設された。およそ2万トンの土砂と流木をせき止めることが出来ると言う。



仙北市議会会派

仁政クラブ

代表 黒田 龍 己
幹事 田 口 寿 宜
長 佐 藤 大 成
高 橋 豪
稲 田 修

民政会議

代表 伊藤 邦彦
副代表 阿部 則比
幹事 安藤 武夫
事務局 門 民 夫

翠巒会

代表 小林 幸 悦
副代表 真崎 寿 浩
荒木 俊 一
大 石 温 基

市民クラブ

会長 八柳 良太郎
幹事 小田嶋 忠
青柳 宗五郎

会派に所属しない議員

熊谷 一 夫
平岡 裕 子
高 久 昭 二

人事案件

○田沢財産区管理委員
千田 博夫氏（仙北市田沢湖田沢字田沢々口167番地）
浦山 清悦氏（仙北市田沢湖田沢字蟹沢口23番地1）
○人権擁護委員
清水 力氏（仙北市田沢湖卒田字上清水54番地1）

控室

定例会冒頭、門脇市長の市政報告で、6月1日・2日に秋田駒ヶ岳で起きた滑落事故についての報告があった。1日は「秋田駒の山開き」が行

われ、男岳登頂後、国見温泉側へ向かう途中、雪渓に覆われた斜面より滑り落ち、田沢湖の女性1名が死亡、2名がけがを負った。2日には、ほぼ同じ場所登山中、登り斜面で転倒し頸椎骨折で盛岡市の男性が死亡した。市ではすぐに注意喚起看板やプレートを設置し、再発防止策をとった。

「山ガール」「富士山の世界遺産登録」等で、過熱気味の登山ブームに【山は神聖で危険と隣り合わせの一面があることを知りなさい】との自然界に棲む「山の神」の人間への警告にしては、あまりにも悲惨な事故であった。
今後は、万全な装備・安全対策と、登山者の心構えが山の事故防止につながることを再認識した出来事であった。

(熊谷一夫記)

傍聴席

仙北市議会を傍聴して

佐藤 康夫

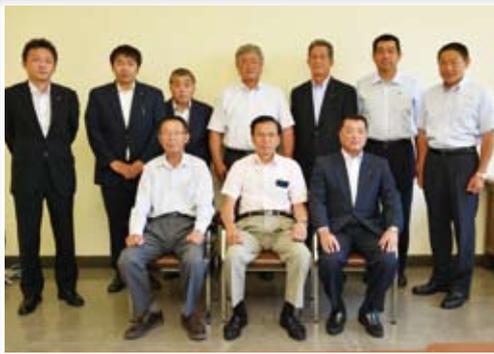
「市議会」と聞くと、独特の緊張感や白熱した議論の応酬で、私とは縁遠い存在ではないかと以前は感じていた。しかし、実際に傍聴すると、激務ながら笑顔の絶えない門脇市長や、各種イベントなどでも共に汗し気軽に相談できる市議会議員の皆さんをより身近に感じるとても良い機会を得ている。

そんな中『仙北市民のため』門脇市長と市議会議員の皆さんが同じ目線で知恵を出し合い、懸命により良い議論を積み重ねている姿を拝見し、胸が熱く、感銘を受けている。昨年8月9日の田沢湖田沢供養佛土石流災害、本年6月1日・2日の駒ヶ岳滑落事故と痛ましい自然災害が相次いだ。仙北市は今、命を守る改善策を早速具体化している。一人でも多くの観光客を安心してお迎えし、また市民が二層健康で安全、豊かな毎日を過ごせるよう、喧々囂々の中にも、お互いの意見を尊重し、市民視線を第二義に、前向き・建設的な議会運営を望む。

二度傍聴してみるのが」と市民に受け入れられる優しい議会だよりを楽しみに。

広報編集特別委員会

- 佐藤 大成 黒沢 龍己
- 高橋 豪 小林 幸悦
- 熊谷 一夫 真崎 寿浩
- 門脇 民夫 高久 昭二
- 阿部 則比古 荒木 田俊一



駒ヶ岳山頂はラッシュ (男岳)



可憐に咲いた駒草

編集後記

この6月定例会が改選後初の定例会になります。委員の顔ぶれも大幅に変わったので冒頭に早速編集委員会を開き今後の紙面構成や編集方法を話し合いました。表紙から内容まで大きく変えようとの声が多かったのですが現実問題としてページ数が印刷会社への入札段階で全16ページに制限されており、見出しの文字

を大きくしたり、写真を多用すると文字数を削らなければならず、内容の乏しいものになってしまいます。総花的な構成はやめて、現在、当局や議会内で問題になっている事柄を抽出してお伝えするべきとなりました。

本号はこれまでと内容的にそれ程大差の無い構成になっていますが次号からそうした意見を反映させてまいりますので、ご愛読を宜しくお願いたします。

(阿部則比古記)